

## 釜石市からの報告（その2）

総務部税務課 主事 大川真理子

### 業務内容について（つづき）

2月19日からは、まず、昨年、世界遺産に登録された橋野鉄鉱山がある橋野地区の「橋野ふれあいセンター」で申告受付をしました。山間部のため、農業所得が圧倒的に多く、初めて免税肉用牛売却所得の申告も受付しました。農業所得者が持参する経費の領収書は、初めて目にするものばかりだったので、一つ一つどのような目的でどのように使用したものなのかを教えていただきながら申告書を作成しました。中には、お一人で農業・営業・不動産・譲渡の所得がある方もおり、時間がかかり苦労しましたが、大変勉強になりました。

23日・24日は、鶴住居（うのすまい）地区の「長内集会所」での受付、25日は平田地区の「上平田ニュータウン集会所」で受付をしました。給与所得・年金所得の他に損失の繰越申告や、収用された土地等の譲渡所得、農業所得も受付しました。

26日・29日は、海に面している唐丹（とうに）地区の「唐丹応援センター」で受付を行いました。ここは、漁業所得者が多く、漁協から発行される利用高証明書を持参する方がほとんどでしたが、農業所得者と同様に経費の領収書を持参されるので、聞き取りをしながら入力漏れのないよう慎重に収支内訳書を作成しました。釜石市の申告システムは、同一画面上に前年のデータが表示されているため、前年の水揚量と比較しながらの説明や、経費の取り漏れの確認ができ、職員の受付のしやすさはもちろんですが、生産者の方も納得して申告できる点は大変良い環境だと思いました。

3月からは、駅前にある「シープラザ釜石」での受付を行っています。ここでは、市内全域から来られるため、様々な申告を受付けています。営業所得も多く、業種も多岐にわたるので、日々、勉強させていただいています。

3月11日、14時46分には、申告会場にて職員と来場者の方々全員で1分間の黙祷を捧げました。震災で亡くなられた皆様のご冥福をお祈りし、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げ、震災被災地の一日も早い復旧・復興を願いました。5年目のこの瞬間をここ釜石市で迎え、黙祷を捧げることができたことは、本当に貴重な経験であり、深く心に刻まれた特別な時間となりました。

また、釜石市東日本大震災犠牲者追悼式に際し、上野市長より追悼のメッセージをいただき、ありがとうございました。税務課長よりお礼のお言葉をいただきました。

#### 被災地の状況について

休日には、担当課長補佐のご厚意により、周辺の震災被災地を2日間に分けて案内していただきました。1日目は、釜石市の北側である釜石市鵜住居地区をはじめ、大槌町や山田町、宮古市田老地区を視察しました。

釜石市鵜住居地区は、釜石市において最大の被害を受けた地区です。震災前の人口約6千人のうち、1割に当たる皆様が犠牲になってしまいましたが、登校していた小・中学生は、自主的に高台に避難し、全員が無事でした。小・中学校も屋上まで浸水したため、現在、高台に新しい校舎を建設しています。



←鶺住居地区の高台に新しく建設中の小・中学校の校舎

釜石市に隣接する大槌町は、壊滅的な被害を受けた町です。その象徴として旧大槌町役場の庁舎跡が挙げられます。震災当時、庁舎内で災害対策本部を立ち上げており、その会議中だった町長をはじめ、多くの職員が犠牲になった場所です。

旧大槌町役場の庁舎跡→



宮古市田老地区は古くから津波被害等で壊滅的な被害を受けてきたため、街の中を分断するX字型の防波堤がありました。震災時にはその防波堤を越え、街が津波にのみこまれました。ここには、震災遺構として保存することが最初に決定した「たろう観光ホテル」があり、津波の凄まじさを物語っていました。



←宮古市田老地区にある  
「たろう観光ホテル」

2日目は、陸前高田市、宮城県気仙沼市、南三陸町、石巻市を案内していただきました。

陸前高田市は、市街地全域が壊滅的な被害を受けたところです。5階建のアパートの4階部分まで津波がきた跡が残っていました。

街全体は、かさ上げされており、かつて、ここに「まち」があったことが想像できないほどでした。「奇跡の一本松」も見ましたが、これだけの津波に耐えて残った唯一の松の木は、現在はレプリカですが、市民の心の拠り所となっているようでした。

陸前高田市の5階建  
アパート→

下の写真の赤ライン  
まで津波が到達



南三陸町は、3階建ての防災対策庁舎が屋上まで水没し、防災無線放送で繰り返し住民に避難を呼びかけ続けた危機管理課の町職員が犠牲になった場所です。

この防災対策庁舎は、今後20年間県有化し、保存か解体かをゆっくり検討していくようです。周辺は、かさ上げされており、この庁舎だけが低い土地の上に残されていました。



←南三陸町の防災対策庁舎

南三陸町の  
防災対策庁舎の周辺→

周りは 360 度かさ上げさ  
れている





石巻市では、津波が北上川を氾濫させて遡上し、河口から5キロ程上流にある大川小学校をのみこみました。多くの児童や職員、地域の方が犠牲になった場所です。この校舎は今後、保存するか解体するか、今まさに地域全体で議論している最中のようなようです。

ここは、今回、私が視察した震災跡の中で、最も衝撃的な光景で胸が締め付けられた悲惨な場所でした。校舎は鉄筋コンクリートであるにもかかわらず、見るも無残な廃墟と化しており、現実を受け入れるまでに時間がかかるほどの状況でした。子どもたちや地域の方たちにとって、安全・安心な場所であるはずの学校が、なぜこのような被害にあってしまったのか、何か救える手段はなかったのか、心が痛み、やりきれない思いでいっぱいになりました。「結果がわかっていたら皆逃げていた」という課長補佐の言葉に共感し、誰も想定できなかった津波の恐ろしさを改めて思い知ったと同時に、多くのことを考えさせられた場所となりました。今まで、映像や写真でしか見てこなかった被災地に、実際に立ってみて、目で見て感じ、得たものは計り知れないほどの大きな財産となりました。この経験を多くの人たちに伝えていきたいと強く思いました。



←石巻市立大川小学校跡



← 大川小学校  
校舎跡

派遣期間は残り一週間となりましたが、さらに全力で頑張りたいと思います。